

「人生会議」に取り組んだことで 「最期まで自分らしい」生活を送ることができた事例

この事例は、人生会議（アドバンス・ケア・プランニング）に取り組んだことによって「最期まで自分らしい」生活を送ることができた、豊田市で実際にあった事例です。
大切なことは何か前もって考え、それを信頼できる人に話すことで、「自身が望んだ療養生活を送ることができる」ということだけでなく、家族や周りの人の不安や負担も和らげることができます。
また、人の想いはとても変化しやすいです。そのため、人生会議は、一度だけで終わらずに、何度も繰り返し行うことが大切になります。

本人が最期まで自宅で過ごしたいと望み、その想いを妻が 専門職のサポートを得ながら支え、自宅での療養生活を送った事例

※この事例において「専門職」とは、医師や訪問看護師、ケアマネジャー等の医療・介護専門職のことを言います。

本人のこと

80代 男性 脳梗塞（要介護5）
妻との2人暮らし

本人の希望

最期まで妻と自宅で過ごしたい。
大好きな風呂に入りたい。
延命治療はしないでほしい。

ご家族や専門職との話し合いの結果

入浴が続けられるように、訪問入浴を取り入れ、
自宅で穏やかに過ごせるよう専門職は支援を行った。
本人が心地良くベッドで過ごすことができるよう、
また、妻も安心して介護ができるよう、医療機器の
配置なども工夫した。

療養中の出来事

訪問入浴を利用し、自宅で妻のそばで過ごし、更には
地域の人たちと「おはよう」「今日はどうかね」
など日々のあいさつができ、繋がりを保てたことで
本人は穏やかな表情で療養生活を過ごした。
訪問入浴は亡くなる前日まで行き、妻に見守られながら
自宅で最期を迎えた。

大切なポイント

- ☞本人は、意思疎通ができない状態でしたが、「家で過ごすことや入浴が好きなこと」は、今までの生活の中で妻は知っていました。
- ☞本人は、以前から「延命治療はしないでほしい」と妻に話をしていました。そのため、意思疎通ができない状態になった時、妻は、本人の希望を尊重し、本人の代わりとなって専門職と今後の医療・介護サービスについて話し合うことができました。
- ☞妻が不安に感じたときは、「本人だったら、どうして欲しいか」を妻と専門職で一緒に考え、繰り返し話し合いをしました。
- ☞本人は、「自分が何を大切に生きてきたか」や「自分が意思表示できなくなった時に、誰にその想いを託したいか」などを事前に周囲の人たちに話しておくことで、人生の最期まで「自分らしい生活」を送ることができました。
- ☞妻は、専門職のサポートを得ながら本人の希望を実現することができ、本人も妻も、穏やかに生活を送ることができました。

人生会議について、豊田市HP・厚生労働省HPを是非ご覧ください！

豊田市HP 掲載情報

- ★専門職の人生会議への想いを掲載したポスター
- ★わたしのノート（スタート編） など

厚生労働省HP 掲載情報

- ★実際にあった事例を再現した映像
- ★タレントと専門職の座談会の映像 など

豊田市西町3丁目60番地
問合せ先 豊田市役所福祉部 地域包括ケア企画課
TEL:0565-34-6787



豊田市HP



厚生労働省HP

「最期まで自分らしくあるために、 やるまい、人生会議」

読書を続けたい。

ずっと笑っていたい。

介護が必要な状態になったらどこで暮らしたい？

住み慣れた自宅で暮らしたい？

大切にしていることはなに？

介護施設で暮らしたい？

家族のそばで暮らしたい。

どんな医療を受けたい？

どんな介護サービスを受けたい？

清潔感を保っていたい。

テレビを観る時間が好き。

苦しい治療は望まない。

趣味を続けていきたい。

綺麗な景色が好き。

介護が必要になっても散歩はしたい。

友人とたくさん話したい。

旅行は1年に1回行きたい。

苦しい治療であっても頑張りたい。

社会と繋がっていたい。

食べるのが好き。



「もしものとき」のための話し合い

豊田市在宅医療・福祉連携推進会議

アドバンス・ケア・プランニング（人生会議）とは、もしものときのために、自身が望む医療やケアについて前もって考え、家族等や医療・ケアチームと繰り返し話し合い、共有する取組のことです。

※個人の主体的な行いによって考え、進めるものであり、知りたくない、考えたくない方への十分な配慮が必要です。

人生会議

検索



豊田市HP



厚労省HP

人生会議とは

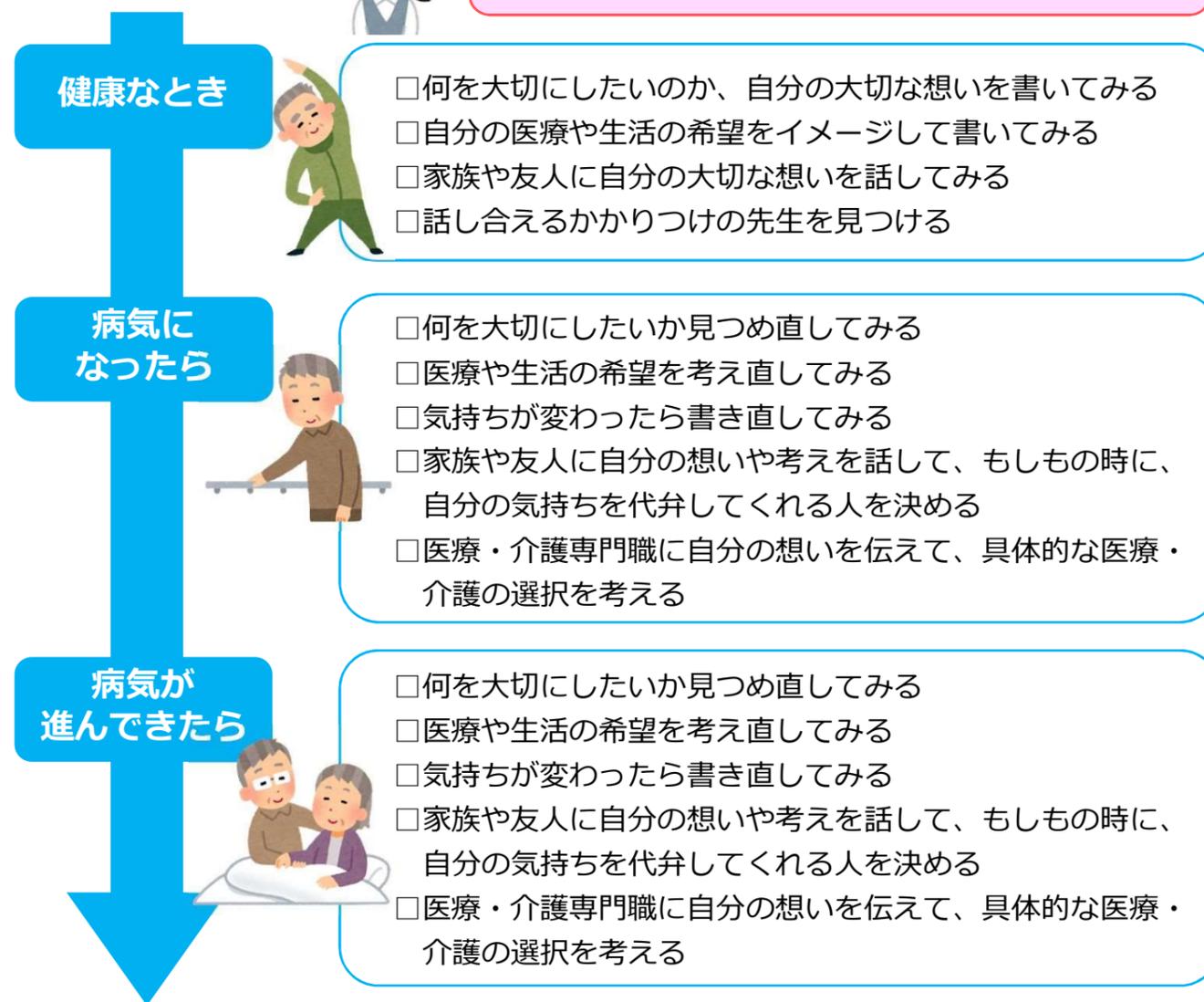
人は誰しも、命にかかわる大きな病気やけがをする可能性があります。命の危険が迫った状態になると約70%の方が、医療やケアなどを自分で決めたり望みを人に伝えたりすることができなくなると言われています。

- ・自分が大切にしていること、望んでいることは何か。
- ・どのような医療や介護をどこで受けたいのか。

自分自身で前もって考え、周囲の信頼する人たちと繰り返し話し合い、共有する取組が重要です。

もしもの時のために、自分自身が望む医療や介護について、前もって考え、繰り返し話し合い、共有する取組を、**人生会議（アドバンス・ケア・プランニング）**と呼びます。

人生会議に取り組む第一歩として
わたしのノート(スタート編)をご活用ください！



過去と現在の、支援の考え方の変化

過去

支援者側の主観的な要素が反映されることがありました。
例) 本人にとっては、こういうサービスが必要に違いない。
だから、こういう支援をしていこう。

現在

本人を中心に、本人の意思に基づく支援を行います。
例) 本人は、こう生きたい、こう生活したいと意思を表明している。
だから、こういう支援をしていこう。

人生会議の進め方の例

1. 大切にしていることは何かを考える

あなたにとって大切なことはどんなことですか？

2. 信頼できる人は誰か考えてみる

あなたが信頼していて、いざというときにあなたの代わりに、受ける治療や介護について話し合っほしい人は誰ですか？

3. 信頼できる人と話し合ってみる

大切にしていることを踏まえ、どのように過ごしていきたいかなどを、信頼できる家族や友人と話し合みましょう。

4. 伝えてみる

話し合ってきた内容を、大切な人に伝えてみましょう。また、医療・介護専門職にも伝えてみましょう。

「気持ちが変わること」はよくあることです。何度でも繰り返し考え、話し合うことが大切です。